

令和3年度 岐阜市立女子短期大学あり方懇談会（第1回）
議事録 概要

- 【日 時】** 令和3年7月15日（木）10時00分～11時50分
【場 所】 岐阜市役所6階 6-3会議室
【出席者】 竹内 治彦座長、石田 達也構成員、林 正子構成員、
松川 禮子構成員、西村 訓弘構成員、野々垣 孝彦構成員
水端 盛仁構成員、畑中 重光構成員、久米 規文構成員

1 開会

2 市長あいさつ

- ・本日は、岐阜市女子短期大学（以下「岐女短」という。）あり方懇談会にご参加いただき、厚くお礼を申し上げます。
- ・岐女短は昭和21年に女性の高等教育として開校し、かつては多くの方に志望もいただき定員をしっかりと満たし、地域に貴重な人材を輩出してきた。
- ・昨今の大きな社会変化の中、志願者数の減少や定員割れで、大変大きな曲り角に立っていると認識している。
- ・これまでも様々な改革の機会があったが、諸般の事情により変革を経ることなく今日まで至っている中で、皆様にはそれぞれの見識からぜひ率直に意見を賜り、岐女短の今後のあり方について岐阜市の方針を決めていきたいと思っている。
- ・岐阜大学は名古屋大学と統合し、東海国立機構として大きな一歩を既に踏み出しており、また、全国を見渡せば様々な大学があり方を変えながら、生き残りを図っている時代であると認識している。
- ・岐阜市として、このような認識のもと議論を深めて参りたいと思うので、最後まで協力のほどよろしく願います。

3 出席者紹介

4 議事

- ・岐阜市立女子短期大学の現状
- ・全国の短期大学を取り巻く環境
- ・今後懇談会で検討する内容
- ◆事務局等から資料に基づき説明

◆以下、出席者の意見

○座長

- ・ただいまの事務局からの説明について、質問や意見があればお願いしたい。

○出席者A

- ・1点目、資料2の4ページ「入学者出身地別状況」に関する事で、岐阜市出身や岐阜県出身の人を地域枠のような形で限定して入学してもらう制度はあるか知りたい。地域別出身者の傾向では、愛知県よりもその他の県から多くの入学者がいることを意外に感じており、地域枠について議論した経緯があるか伺いたい。
- ・2点目、5ページの「就職状況」に関する事で、就職希望でない人はどのような進路なのか知りたい。

○出席者B

- ・地域枠は、しっかりと議論し前向きに志願者の入学確保を検討していきたい。進路先の質問と併せて、事務局より説明する。

○事務局

- ・地域枠については過去に検討した経緯はあるが、具体的な結論には至らず、今後検討していく。また、進路については、就職希望者は全体の概ね70%で残りが進学希望者である。

○出席者B

- ・英語英文学科の学生は進学が多い。

○出席者C

- ・課題解決のポイントは何点かあるが、岐阜学入門を開設し、全教員が岐阜を教育研究テーマに設定することは重要だが、経験上、非常に大変なことだと思う。岐阜学を考える際にはパーソナルなところから始めて、ローカル、リージョン、エリアといった国際コミュニケーションにも繋がっていくようなグランドデザイン的なものを持たば、普遍性を持った地域概念になりうると思う。
- ・「入学者出身地別状況」の資料では、他県からの入学者が多いことに私も驚いたが、そのような状況であれば、入学者募集のターゲットを全国展開してもよいと思う。
- ・短中長期の岐女短構想で、特に長期を見据えた考え方は非常に納得する。昔は、岐女短の存在は決して四年制大学に劣っていなかった。例えば、スチュワーデスや秘書になりたいなど、優秀な同級生が岐女短へ進学していた。今も優秀な

方々が岐女短卒業という話を聞くので、まずは4学科から3学科に改編する計画でグローバルコミュニケーションというものに整理していくのも非常に説得力がある。4大化構想は、名古屋市立大学や広島市立大学などのように一気に4大化するのではなく学科編成から慎重に進める方法もあると思う。

- 先ほどの説明で70%程が就職希望、残り4分の1程度の学生は大学編入を希望している辺りも整理してはどうか。また、保健師、助産師、看護師などの職業に関係する学科を検討する上では、既にある看護系大学と差別化も鍵になると思う。
- 発信力強化の点では、ユーチューブの活用も大切で岐女短チャンネルがあるのはとてもよいことだと思う。地域概念をどう捉えるかを考えたときに、岐阜市の観光や文化、伝統など観光学や都市デザインなどと連携したアピールの方法は考えられる。

○出席者A

- 大きく2点申し上げたい。1点目は、最終的な議論として女子校存続か、男女共学かは大きなテーマになると思う。今後、学科編成のあり方を議論する中、正直申し上げて、非常に困難を伴うと思う。大学は、学科構成に合う教職員を採用しており、大きく変えると現教職員の専門性に関わるので、大幅な教職員の入れ替えは難しい。他の大学にも共通するが、学部、学科の改編は現教員の専門性に大きく拘束され、微修正しかできないと思う。また、教員は専門的な科目を教えるために採用された意識が高く、そのような教員を動かして岐阜学など新たな学科を創ることは力技が必要で苦労も伴うが、共通の悩みを持つので勉強していきたい。
- 2点目は、18歳人口減少の中、大学は各地に多く存在し、岐阜県内も相当数の大学や短大が設置されており、人口と大学との数が合わないと考えられる。岐女短の短中長期の展望を考える中で、他の大学運営もこの先の十年間で大きく変わらざるをえないと思う。大半の私立大学は大きく定員が割れており全国的な問題となる中、岐女短ビジョンを本格的に推進すると周辺大学に大きく影響を与えることは明らかである。仮に看護や介護の学科を検討した場合、既に学科が存在する他の大学と競合になり、岐女短のあり方を考えて動くことは周辺大学に影響を与え、他の大学への波及効果が非常に大きい。現大学数が現状維持で存続することは難しい状況の中、他の大学との連携や統合も視野に入れて、本懇談会でも慎重に考えるべきと思う。

○出席者D

- 文部科学省の会議に出席していると、今、地方大学を抜本的に変えようとする

動きがある。大学の存在意義、大学のあり方が問われているのは確かであり、地方大学の特色ある機能が出ていないと指摘されることもある。また、大学全体が制度疲労みたいなのを起こしており、受験者の減少は、子どもの数が減少し定員割れしているのか、又は大学が飽きられて一定割合以上は入学していないのかも考えるべきである。また、一般の社会人がリカレント教育で大学に来ることは少ないが、社長などに大学で学べることを紹介すると、すごい勢いで大学に来てもらえる実態があり、大学が社会の中でどうあるべきか問われていると思う。

- 今般のパンデミックで、通信などで学ぶ環境が整備されつつある。アメリカのミネルバ大学もその一つで、最近関わりのあるアリゾナ州立大学の ASU は、3万人程度が通信教育で対応しており、こういう大きな流れがある。
- もう一つ、岐女短も市立大学としてどのような存在意義を持つのかを考えることが重要である。地域に必要な人材を育成したいのか、看護師など地域に足りない人材を育成したいのか、地域に残りたい学生を育成したいのか、半数が県外から入学する中、何を目指して大学を存在させるのかによって、どのような学科を設置するのか考え方は違ってくると思う。
- 最近、地域貢献をすごく頑張り始めているのは県立大学や公立大学で、県の政策と連動しシンクタンクのように動き始めている。地域課題を長期ビジョンで解決し、学生も巻き込みオンザジョブトレーニング的な実践教育をしながら学生を育てており、ローカルで大学運営するときの参考となる。社会が変化する中で地方なりに課題も多いと思われるが、課題解決を考える力は様々な場面で使える基礎力になる。行政と共に社会を変えて社会を創る部分に学生を巻き込むと教育機会として公立大学の強みとなる。どのような立ち位置で岐女短を動かすのか明確にした方がよい。
- 教育方法も変化する中、教員構成や大学の内情も詳しく知りたい。本日の説明を聞く限りでは、教員構成を変えないことを前提に、大学の表面や内部構成、教育内容など大学のデコレーションを変えるだけにみえる。そうすると目的に合わせるだけで選択肢が狭くなる。また、実務者を養成するなら、そのために2年間を有効に使うような教育をするとよいと思う。
- 大きく社会変化する中で、知識を使いこなしながら社会の新しいものを開いていく人や、知識を生かしていくような教育は必要で、地域のシンクタンクとして活躍する大学を創るとしたら、現状の教員構成では難しい面もあり、計画的に教員の入れ替えを考えることなどを検討しなければ目的と合致しないと思う。大学全体が追い込まれており、一歩踏み出す改革をするのか、また、地域の役割をどうするのか、考えられるとよい。

○出席者 E

- ・高校生の進学先は、大学、短大、専門学校などを選択するが、関心事は大学や短大に入学し、2～4年間で何を学べるのかと卒業後の就職先の大きく二つになると思う。岐女短卒業後の就職状況について、例えば、市内企業の就職状況や学科に則した就職状況、岐女短での学科を基礎に他分野への就職などプラスとなる情報を高校へアピールするとよい。
- ・岐阜学については、県内の高校もふるさと教育に力を入れている。他県から多くの入学者がいる実態であれば、岐阜市近郊地域を含めた課題解決や行政、企業、NPOとの連携をするなど、地域独自の科目や授業を設定することで、岐女短の強みを出せると思う。愛知県や他県から入学した学生が岐阜の魅力で2年間で体験した後、岐阜市内に就職することが地元企業は望むと思うので、その辺りを岐阜学も含めて模索するとよいと思う。
- ・もう一つは、4大化の前に、4年制大学と連携して他の大学でも単位取得を可能とする仕組みや、一部の授業は、例えば岐阜大学などで受講可能とする仕組みがあれば新たな魅力の発信になると思う。実現可能か分かりかねるが、外部連携の強化は必要と思う。

○出席者 F

- ・短大のメリットは4年制大学と比較して学費負担が少ないことや短期間に基本的なことを学べることを考える。また、保育士や栄養士、看護師、介護福祉士などの資格が取得できる可能性があり、就職が有利に導けることなどが挙げられる。デメリットは、給与面で大卒と短大卒の初任給の差があり、生涯年収の差が生じるのが現実である。また、短大は短期で集中して授業を行い、時間が無い中で就職活動をするので、負担が大きいことや18～19歳の時期に将来の進路を決定し、社会に対する知識や判断力が十分でない中で決断が迫られるため、学生の判断能力自体が伴わないことがある。
- ・食物栄養学科、英語英文学科、国際文学学科など他のエリアにはない女性に人気の学科選択が可能であることはメリットで、入学者減少の中、このような学科特性は魅力の一つと思う。
- ・大学で何を学び、何を学んだのかを明確に学生から伝わるものがないと、大学卒業という肩書だけでは基本的に採用は難しく、逆に高校卒業の学歴でも優秀な人材や欲しいと思う人材は増えている。大学卒業だけでは伝わる部分が少なく、短大卒業生としてアピールポイントが多いケースもあり、その辺りを明確なビジョンとして示すとよい。単純な書類を書くなどの業務は、AIやITに任せる時代であり、人間が行うべき問題解決の手法を身に付けている人材は活躍する可能性はある。具体的な問題解決の手法は、例えばテーマを与えて、

どのような問題があり、どのように解決するのか、色々な選択肢はある中で、どこに結果を見つけ出すかという概念を学生が自分なりに考えるような能力を身に付けている人材がこれからは必要である。また、データ量が増えている中、データの統計学や解析力を身に付けていることも重要な要素で、経営を行う上で、統計分析などは必要であると考えている。大学では資格などの勉強や自らの能力を伸ばすことが必要で、カリキュラムや教員構成の制約はあると思うが、ITや語学、問題解決力、統計学などは必要であると思う。

- 岐女短を卒業し他の大学に編入する学生も増えており、岐女短からキャリアパスも含めた他の大学に進む仕組みを検討するなど、カリキュラムの見直しも含めて考えることも必要であると思う。
- 昨今、高専卒業者で優秀な人材が増えていると感じる。高専は5年間で専門的スキルを身につけている人材が多く、採用したいと思うことが多い。こうした中、例えば、高校か短大の5年間をグループ化し、専門的カリキュラムを学ぶ仕組みがあると知識や専門性向上に繋がると思うので、選択肢と考えてはどうか。
- 他の大学も取り組んでいるが、外国人が岐阜地域の企業に就職を目指すカリキュラムや受け入れる企業と連携するなど、特に介護士や看護師は人材不足で、外国人対象の雇用体系も必要であると思い、外国人が学ぶ場として短大が選択肢となる体制も必要と思う。

○出席者G

- 男性は、就職すると社内で鍛えられ、時には資格の取得も可能で、出世もできるが、女性は中々同じようにはいかない実態がある。女性の場合、出産や育児を機に会社を辞める時代が続き、短期離職者も多かったが、育児介護休業法も改正され、男性育児休暇取得の促進や女性活躍推進なども重用とされ、法的な後押しにより女性勤続年数が伸びている。育児休業や介護休業を利用して職場に復帰する女性や働く場が増えるなど、時代に上手く対応した活躍できる人材を育てる大学運営が役割の一つであると思う。大学や短大で資格を取得して、それに則した就職をするだけでなく、広い教養力や行動力が身につくような教育が重要と思う。岐女短を共学にするのかは別として、女性限定の短期大学の環境をプラスに捉え、時代に沿ったカリキュラムを考えて、ビジョンなどを推進するのはどうであろうか。

○出席者H

- 3点述べさせていただきたい。1点目は、記憶が曖昧で申し訳ないが、九州地方の女子短大で男性が女子大学の栄養学系の受験を希望したが、入学資格を

満たしていないと判断が下され、それが平等に反するとして裁判になり、たしか学校側が敗訴したのでないかと記憶している。(実際は男性が提訴を取り下げたため、司法の判断は下りなかった) この事例から申し上げたいのは、今の時代に公立組織で女性限定の学校運営がコンプライアンス的にあり得るのか確認が必要と思う。

- 2点目は、建学の精神が岐女短のビジョンに謳われ、戦後に女性の高等教育として1946年に設立された。当時の高等教育は短大の選択肢も多かったと思うが、今は4年制大学に進学することが多く、女性リーダーを育てる短期大学が生き残るには難しい部分もあり、建学の精神や短期大学の役割をどのように果たすのか定義を見直す必要があると思うし、市立大学が事実上、県立大学の役割を目指すこともあると思う。私立の女子短大であれば、3年程度で国家資格を身につけることも多い中、県都岐阜市として、岐女短の根本的な目指すべきものを議論すべきと思う。アメリカ合衆国は、公立と私立教育であれば私立教育の水準が高く、公立教育は機会均等を保障する傾向の中、日本の特に地方では、高校は公立、大学であれば国立大学や公立大学に行くような進路指導に成りがちな傾向がある。岐阜県もそうだが、地方ほどその傾向が強く、このような進路指導が行われると、エリート層は国立、公立大学に進むため、公立の短期大学はどのような立ち位置になるのか中々難しい面もある。4年制大学との連携は、新たな発信となり面白いと思う。
- 3点目は、公開は難しいかもしれないが、岐女短の財務的な部分が気になる。例えば、収容定員や学費はどの程度必要で、岐阜市の負担はどの程度なのか。新しいことを考える上で、設置基準や設置経費、教員審査もありこれは全て財務の部分であり、この会議で踏み込むのか気になる点ではある。岐阜薬科大学と10数年関わりがあったが、市内の高校生が岐阜薬科大学に進学することも、岐阜薬科大学卒業後に岐阜市の企業に就職することも少なく、そうなるとう岐市が負担して大学運営することを納税者に対して説明できるかという問題があると思う。財務的な役割を岐阜市は果たすことが出来ているのかその辺の情報をこの会議で共有した方がよいと思うし、大学の評価委員の経験もあるので、プロの視点からアドバイスはできると思う。
- この会議では行政、大学、大学運営などと切り離して自由な視点で日本の高等教育としてあるとよい分野なども意見として出してもよいと思う。最終的に資料等でまとめる際は、プロフェッショナルな部分も必要になると思うので協力する。

○出席者C

- 自由な視点で、色々な業界からの意見は大事である。皆さんの意見を聞いて、

3点申し上げたい。1点目は、大学運営の改革を進める上での前提は、現状の教員、施設があり大学理念を定めるのが理想である。理想の短大、理想の大学を創るために、教員、スタッフ、施設、構成が固まり岐女短の宝を最大限生かすためにも、4年制大学との連携や単位互換制度は大いに進めていく意義があると思う。

- 2点目は、岐阜学についても、専攻分野を急に改編するのではなく、各研究成果を生かして岐阜学にコミットさせるかが重要で、地域概念が分かれることもあるので、ローカル限定の研究ではなく、ローカルからリージョナルスタディ、国際研究のエリアスタディ、そしてパーソナルからユニバーサルまで繋げて、岐阜学を位置付けるのは考え方として重要である。全教員が急に研究分野をローカルに限定することではなく、各研究者が岐阜学の研究を生かす上でも、岐阜学がテコになり原点として、アイデンティティを問う部分を模索していけば、岐阜学をコアにすることも夢ではないと思う。
- 3点目は、18歳人口が減少していく中、リカレント教育の位置づけを考えていくことは岐女短として鍵を握る部分と思う。

○出席者F

- 社員が仕事をしながら岐阜大学などで学び、資格を取得する人材も増えている。社会人のリカレント教育は通信教育も含めて様々な手法がある。学生に限らず社会人対象の学ぶ場や地域的要素を学ぶことも含めてどのように創るのが今後必要になると思う。また、地域に根付く大学形成を目指す上では、地域の学生だけでなく地域の社会人が学ぶ要素を創ることが重要である。地元の岐阜大学や岐阜薬科大学などは社員能力を高める環境の場となっている。社会人でも大学で学べる魅力ある部分を地元企業に発信し、自ら持つポテンシャルやスキルを社会人が通信教育などで利用できるようにアレンジしてそれを魅力として発信し、学生に限らず社会人対象の教育環境の確保を検討して欲しいと思う。
- 費用をかけずネットワークを上手く利用して、例えば、学生に限らず社会人が月額で通信教育を学べる環境を整えて発信して欲しいと思う。また、育児休暇中の方もインターネットであれば学ぶことは可能であり、学ぶ場としての環境をどのように創るかを考えれば、色々な手法が取れると思う。通信教育等の対応できる人材は必要だと思うが、人材確保も含めて、他の大学は色々な手法を取っており、例えば週1回、1ヶ月1回は学校に足運び、残りは通信教育等で運営するなど、地域と繋がる大学運営を考えていくとよい。

○座長

- ・本日は、皆さんから地域概念や大学の連携、リカレント教育などについて、意見を頂戴した。今後は、本日の意見も含めてどのように深めていくかを事務局でも検討いただきたい。

5 閉会

○事務局

- ・本日いただいた意見は、今後の会議や庁内での議論の参考にさせていただく。また、次回以降の会議についても積極的な意見をよろしく願います。